

佐久新校の校地選定結果報告（案）

高校再編推進室

「佐久新校の校地選定に係る検討項目」に則り、下記のとおり検討した。

1 校地・校舎に係る環境

○検討項目 ◇考え方	検討結果
①敷地（校地）の広さ ◇充実した施設を整備するには、敷地面積が広い校地が必要だと考える。	○授業で日常的に使用する施設（校舎、グラウンド、テニスコート）を比較すると、野沢北高校は 37,186 m ² 、野沢南高校が 34,636 m ² であり、2,500 m ² ほど野沢北高校の方が広い。
②校地拡張の可能性 ◇新たな学びを実現する施設を検討した際に、校地拡張の可能性も考慮する必要があると考える。	○両校ともに隣接する農地があることから、両校に大きな差はないと考えられる。
③近隣住民への影響 ◇学校での活動による騒音、校舎改築による日照権など、近隣住民への影響が少ない校地がよいと考える。	○両校ともに周辺に 50 軒程度の住宅がある。新校での近隣住民への影響は、校舎の改築規模や配置等が未確定のため、 現段階で判断することは困難である。 ○ちなみに、両校の学校活動に対して近隣住民からの苦情は、過去 5 年間で野沢北高校は 0 件、野沢南高校は 4 件である。
④駐車場施設の確保 ◇学校行事等で大勢の方が来校する際、駐車場の確保ができる校地が必要だと考える。	○現在の校内駐車可能台数は、野沢北高校が 93 台、野沢南高校が 55 台である。校内における駐車場の確保については、広い校地に優位性があると考えられるが、校舎の改築規模や配置等が未確定の 現段階では判断できない。 ○近隣の借用可能な駐車場施設については、 現段階で比較することはできないと考えられる。
⑤周辺の道路環境 ◇新校での学びを考えると、大型バスや訪問者が訪れやすい周辺道路の環境も考慮したほうがよいと考える。	○現在の道路環境においては、東西を走る国道 254 号線、南北を走る国道 141 号線等の基幹道路に囲まれ、高速道路のインターチェンジにも近い 野沢北高校に優位性があると考えられる。

2 通学環境

○検討項目 ◇考え方	検討結果
⑥通学時の安全性 ◇歩道や自転車道など、通学の安全性が確保されている校地の方がよいと考える。	○野沢北高校は、交通量の多い幹線道路沿いを通学する危険性はあるが、幅の広い歩道や信号・横断歩道等が整備されている。 ○野沢南高校は、学校周辺道路の道幅が狭く、歩道が整備されていない危険な場所も存在するが、交通量は比較的少ない。 ○上記のことから、 安全性を評価することは困難である。
⑦駅（中込・佐久平）からの距離 ◇広域から生徒を集めることを想定し、駅から近い場所に校地があ	○中込駅からの距離は、野沢北高校が 2.0km（徒歩 25 分）、野沢南高校が 1.7km（徒歩 21 分）であり、300m 野沢南高校の方が近い。 なお、新校における校舎配置

<p>る方がよいと考える。</p>	<p>によっては、野沢南高校は今よりも 100m ほど近くなる可能性も考えられる。</p> <p>○佐久平駅からの距離は、野沢北高校が 6.6km（自動車 13 分）、野沢南高校が 8.0km（自動車 16 分）であり、1.4km 野沢北高校の方が近い。</p>
<p>⑧自動車でのアクセス</p> <p>◇保護者の送迎によって通学する生徒もあることから、自動車でのアクセスの良さも考慮する必要があると考える。</p> <p>◇広域からの通学を考慮し、交通網の変化にも対応できる校地がよいと考える。</p>	<p>○現在の道路環境において、保護者の送迎による自動車でのアクセスの良さや将来的な公共交通機関の変化に対応できるのは、幹線道路に囲まれた野沢北高校の校地に優位性があると考えられる。</p>

3 学習活動を支える教育環境

○検討項目 ◇考え方	検 討 結 果
<p>⑨他の学校との交流の利便性</p> <p>◇他の学校との連携や交流がしやすい校地が必要だと考える。</p>	<p>○他の学校との交流活動における移動距離を考えると、大学・高校・中学校には野沢北高校の方が近く、幼保・小学校・児童館には野沢南高校の方が近い。実際にどの学校と交流するかで一長一短あるため、両校に大きな差はないと考えられる。</p>
<p>⑩地域との交流の利便性</p> <p>◇地域の施設や企業との連携、交流を想定し、生徒が移動しやすい校地が必要だと考える。</p>	<p>○地域の施設や企業との連携活動における移動距離を比較する上で、様々な連携先が想定され全ては網羅できない。実際にどの施設・企業と交流するかで移動距離は異なるため、両校に大きな差はないと考えられる。</p>
<p>⑪近隣施設（公共施設等）の有用性</p> <p>◇学校外の施設での活動を想定し、近隣の施設が使いやすい校地が必要だと考える。</p>	<p>○近隣の公共施設での活動における移動距離を比較する上で、日常的な利用が想定される野沢会館や総合運動公園等を比較すると、両校に大きな差はないと考えられる。</p>

4 総 括

各検討項目について、野沢北高校と野沢南高校の校地の比較検討を行った。

野沢北高校に優位性があると考えられる項目は、「①敷地（校地）の広さ」、「⑤周辺の道路環境」、「⑦佐久平駅からの距離」、「⑧自動車でのアクセス」の 4 項目であり、野沢南高校に優位性があると考えられる項目は「⑦中込駅からの距離」の 1 項目である。その他の項目においては両校に大きな差はないと考えられる。

以上のことから、下記のように判断した。

○佐久新校（仮称）は、野沢北高校の校地校舎を活用する。